

めぐみイエス・キリスト教会

2025年6月8日(日)第二主日昇天礼拝

午前10時より

週報「通算第762号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌136「御霊よ降りて」 p. 192

【交読文】 No.55 ヨハネの福音書15章(抜粋) p. 923

【賛美Ⅱ】 新聖歌385「主よ終りまで」 p. 620

【使徒信条・主の祈り・前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「聖霊の風」

【聖書朗読】 使徒の働き2章36節～41節 (p. 236上段)

【礼拝説教】 《ペンテコステの日に》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(使徒の働き2章36節～41節)

2:36 ですから、イスラエルの全家は、このことをはっきりと知らなければなりません。神が今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」

2:37 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、私たちはどうしたらよいのでしょうか」と言った。

2:38 そこで、ペテロは彼らに言った。「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。

2:39 この約束は、あなたがたに、あなたがたの子どもたちに、そして遠くにいるすべての人々に、すなわち、私たちの神である主が召される人ならだれにでも、与えられているのです。」

2:40 ペテロは、ほかにも多くのことばをもって証しをし、「この曲がった時代から救われなさい」と言って、彼らに勧めた。

2:41 彼のことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。

●ポイント1. ヨハネ・マルコの家で起こったこととは？

※使徒の働き2章1節～6節「エルサレム市内の朝の9時」(新約p.233)

2:1 五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。

2:2 すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。

2:3 また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上に留まった。

2:4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろな言葉で話し始めた。

2:5 さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国々から来て住んでいたが、

2:6 この物音がしたため、大勢の人々が集まって来た。彼らは、それぞれ自分の国の言葉で弟子たちが話すのを聞いて、呆気にとられてしまった。

●ポイント2. 主イエス様の約束とは？

※ルカの福音書24章45節～49節「昇天される日にて」(新約p.174)

24:45 それからイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、

24:46 こう言われた。「次のように書いてあります。『キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、

24:47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、あらゆる国の人々に宣べ伝えられる。』エルサレムから開始して、

24:48 あなたがたは、これらのことの証人となります。

24:49 見よ。私は、私の父が約束されたものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」

◎先週のメッセージ【主イエスの昇天】

《今日は、主イエスの昇天礼拝となります。主が復活されて40日目のこととなります。さて、場所ですが、ヨハネ・マルコの家の一階であることは、ほぼ間違いないと思われれます。そして、主イエスが、この場所でご自身を現わされるのは、三回目となります。

主イエスは、三度の受難予告において、ご自身の復活を預言されました。しかし、ご自身の昇天については、最高法院の議員ニコデモが尋ねて来た時に言われました。

「だれも天に上った者はいません。しかし、天から下って来た者、人の子は別です。モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません」と。

この預言には二重の意味が含まれています。一つは、十字架です。また、主はご自身が、「天から下って来た者」であることを明らかにしています。「だれも天に上った者はいません」と命題を出して、その後で「人の子は別です」と言われるのです。これこそ、ご自身が昇天されることの預言なのです。

それから主イエスは、ヨハネ・マルコの家を後にし、弟子たちをベタニアの近くまで連れて行きます。十字架に掛けられる前、あの「ゲッセマネの園」に向かった同じ道を、今度は真夜中ではなく、真昼に、歩いて行くこととなります。主イエスは、オリーブ山に弟子たちを導きます。この場所こそが、主が昇天され再臨される場所でもあるのです。

ルカによれば、「主は、天に引き上げられる時に、手を上げて祝福された」としか、書かれていませんが、私は、マタイの福音書の最後の言葉こそが、この時に語られた言葉ではないかと考えています。

「私には天においても地においても、すべての権威が与えられています。ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。見よ。私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいます」と。》

◎お知らせ

※次回第三主日礼拝は、2025年6月15日午前10時より行ないます。